**「阿弥陀三尊浄土図」と「仏教伝来の道と薬師寺」**

食堂を飾るのは、東京芸術大学の有名な日本画家であり名誉教授である田渕俊夫（1941–）による長さ50メートルの壁画です。玄奘三蔵院内の平山郁夫の絵画は、仏教の聖典を求めて中国からインドへ17年の玄奘の旅のシーンを提示していますが、平山に学んだ田渕の絵画は、中国から日本へ伝わった仏教の伝来の旅が描かれている。

中心にあるのは、本尊である「阿弥陀三尊浄土図」です。阿弥陀は、死の際にその名を唱えるものに他の仏や菩薩と共に現れると誓う仏です。

「仏教伝来の道と薬師寺」と題されたこの一連の絵画は、中国から始まり、仏教を勉強するために渡った日本の僧侶たちが、帰国の船に乗る様子から始まります。やがて薬師寺が最初に建てられた日本の古都である藤原京に到着し、絵画の一つがその時代の寺院の様子を視覚化します。最後の絵は、平城京を描いています。平城京では、約1300年前に首都と寺院が移転しました。また、玄奘三蔵院内の平山の一連の絵に描かれた玄奘の17年の旅の出発点である西安の大雁塔の絵もあります。堂内と絵画は、特別な機会にのみ公開されます。